

FD研究検討委員会「勉強会」 2010.6.30 (水)

「京都大学学生学習調査」(仮)に向けて

溝上 慎一

(京都大学高等教育研究開発推進センター)

<http://smizok.net/>

E-mail smizok@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

今日の報告

- 目的：「京都大学学生学習調査」(仮)に向けて
- 企画・調整委員会 調整(評価)小委員会(委員長：八木紀一郎) 『1・2回生アンケート』(2002)
- 科研調査による京大生2回生調査(2005-2006)
- 京都大学高等教育研究開発推進センター・(財)電通育英会主催による全国大学生調査(2007)

企画・調整委員会 調整(評価)小委員会(委員長:八木紀一郎)
『1・2回生アンケート』

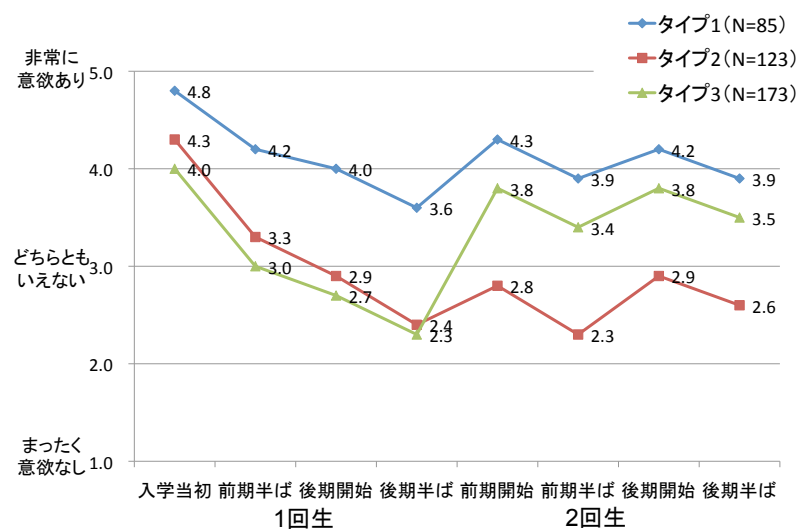
郵送配布時期:2002年12月～2003年1月

対象:京都大学全学部1・2回生1/3抽出、回収率43.9%

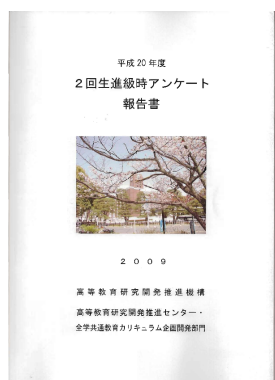
| | 1回生 | 2回生 | 全体 |
|-----|------|------|------|
| 在籍数 | 2813 | 2790 | 5603 |
| 抽出数 | 938 | 932 | 1870 |
| 回収数 | 415 | 406 | 821 |

単位:人

入学以降の学習意欲の変化(2回生抽出)



2回生進級時アンケート調査（2003～）
 高等教育研究開発推進機構
 高等教育研究開発推進センター
 （全学共通教育カリキュラム企画開発部門）実施



全国の旧帝大生・京大生の授業学習時間
 （2回生後期）

| | | 全国の旧帝大生 (京大生を除く)* | 京大生** |
|----|---------|----------------------|--------------|
| 1 | 全然ない | 6 (2.1) | 10 (0.9) |
| 2 | 1時間未満 | 3 (1.0) | 6 (0.5) |
| 3 | 1～2時間 | 5 (1.7) | 16 (1.5) |
| 4 | 3～5時間 | 23 (8.0) | 66 (6.1) |
| 5 | 6～10時間 | 19 (6.6) | 134 (12.4) |
| 6 | 11～15時間 | 51 (17.7) | 228 (21.2) |
| 7 | 16～20時間 | 73 (25.3) | 266 (24.7) |
| 8 | 20時間以上 | 108 (37.5) | 352 (32.7) |
| 合計 | | 288 (100.0) | 1078 (100.0) |

16時間以上の合計 **62.8%** **57.4%**

(*) 秦由美子科研(2006年実施)、2年生(N=329)だけを抽出して再分析

(**) 山田礼子科研(2005年実施)、京大生2年生(N=1091)を抽出して再分析

全国の旧帝大生・京大生の授業外学習時間 (2回生後期)

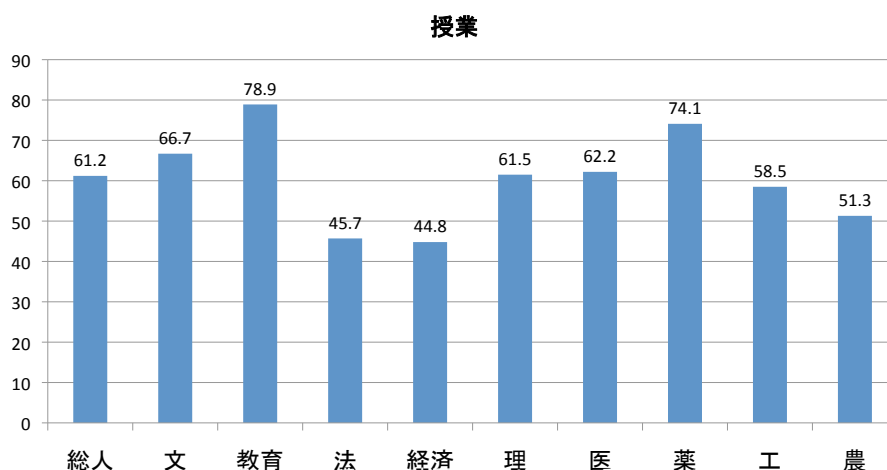
| | | 全国の旧帝大生 (京大生を除く) * | 京大生** |
|---|---------|-----------------------|--------------|
| 1 | 全然ない | 6 (2.1) | 31 (2.9) |
| 2 | 1時間未満 | 21 (7.3) | 111 (10.3) |
| 3 | 1～2時間 | 52 (18.0) | 221 (20.5) |
| 4 | 3～5時間 | 85 (29.4) | 328 (30.4) |
| 5 | 6～10時間 | 61 (21.1) | 206 (19.1) |
| 6 | 11～15時間 | 31 (10.7) | 69 (6.4) |
| 7 | 16～20時間 | 4 (1.4) | 33 (3.1) |
| 8 | 20時間以上 | 29 (10.0) | 81 (7.5) |
| | 合計 | 289 (100.0) | 1080 (100.0) |

5時間以下の合計 **56.8%** **64.1%**

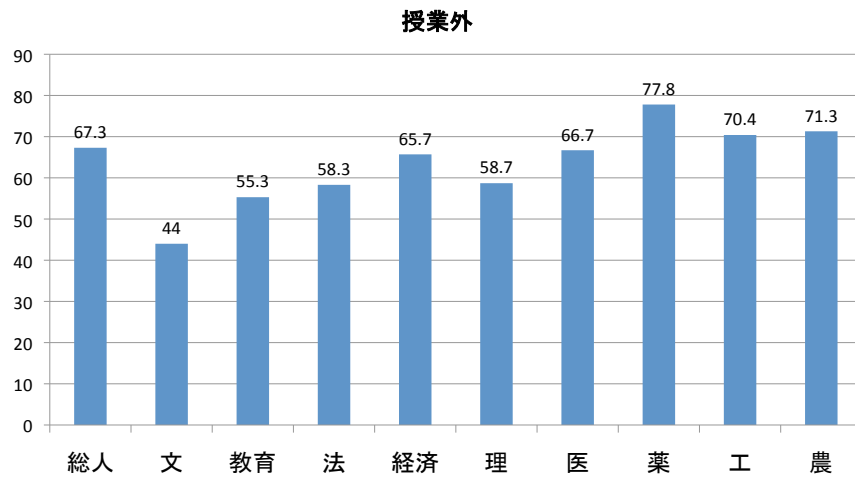
(*) 秦由美子科研(2006年実施)、2年生(N=329)だけを抽出して再分析

(**) 山田礼子科研(2005年実施)、京大生2年生(N=1091)を抽出して再分析

京大生学部別「授業学習時間」 (16時間以上/週)、2回生後期



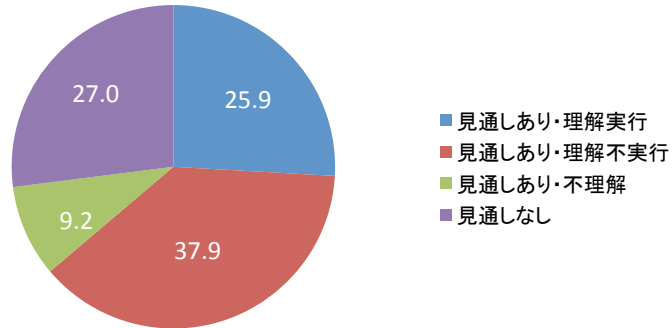
京大生学部別「授業外学習時間」 (5時間未満/週、2回生後期)



『大学生のキャリア意識調査2007』

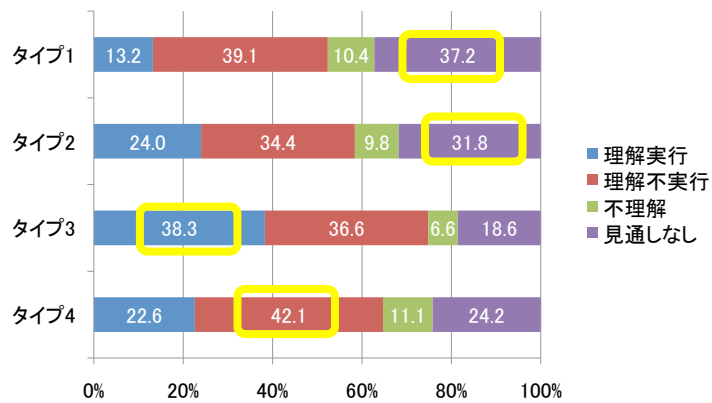
- 京都大学高等教育研究センター・(財)電通育英会主催
- 電通リサーチによるインターネットリサーチ。
- 回答者：
全国の国公私立大学生2013名
(1年生988人、3年生1025人)
- 調査時期：
2007年11月に実施。

2つのライフ(将来の見通しと実行)

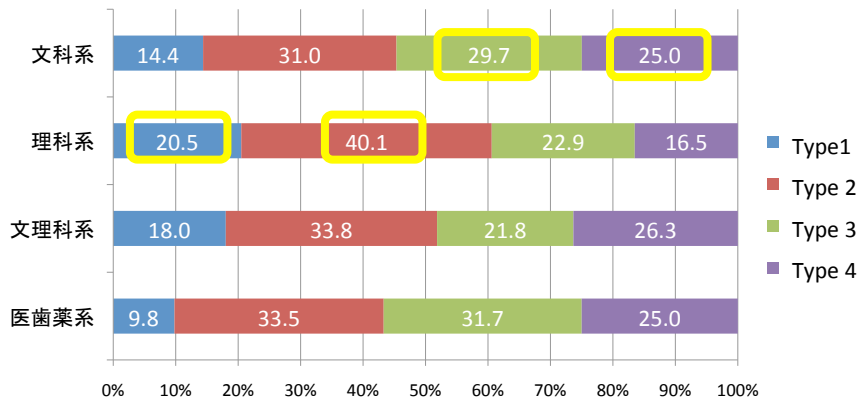


将来の見通しの「有無」(将来) + 「理解・実行」(日常)

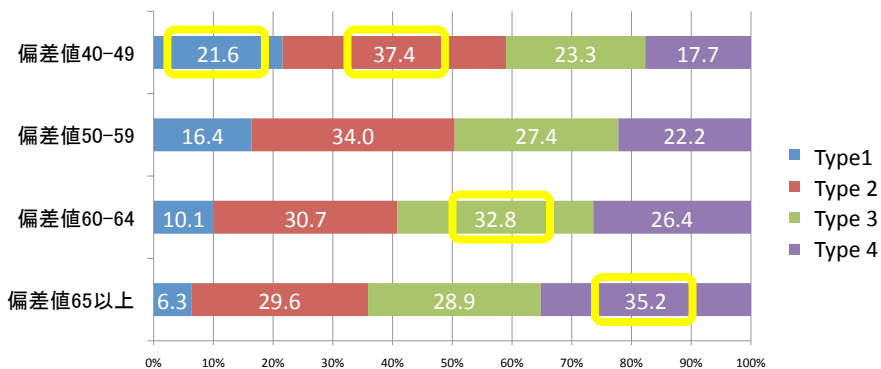
学生タイプ×2つのライフ(将来+日常生活)



学生タイプ×文系・理系



偏差値による差違



*代々木ゼミナールの入試難易度大学ランキングの偏差値

(注1) 度数は「偏差値65以上」(142名)、「偏差値60-64」(296名)、「偏差値50-59」(847名)、「偏差値40-49」(583名)、「偏差値39以下」(15名)であり、「偏差値39以下」は分析対象から除外。なお、学科試験がないなどの理由で入試難易度が示されていない大学・学部については欠損値扱いとした(81名)。

(注2) ピアソンの χ^2 検定の結果、0.1%水準で有意差が見られた($\chi^2(9)=54.410, p<.001$)。残差分析の結果、5%水準以上で有意に多く見られたセルは、「偏差値65以上」のType 4、「偏差値60-64」のType 3、「偏差値40-49」のType 1、Type 2であった。

京都大学学生学習調査(案)

2010.6.30

FD研究検討委員会からの御願い

・学部で尋ねてほしい質問項目があれば、お寄せ下さい。(2010年8月末日締め切り)

連絡・問い合わせ先

溝上慎一 (高等教育研究開発推進センター准教授)

smizok@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

研究室：075-753-3047

*データは、各学部へフィードバックすることもできます。*自己点検・評価報告書等に自由にお使い下さい。